しんぶん赤旗 2026.7.5

教育史

三輪定宣 著

教育の意義は、「人間をつくる」営みであると説く筆者。その立場から、日本とともに中国、西洋の教育史を古代から現在まで俯瞰（ふかん）してダイナミックに描きます。戦前から戦後にかけての日本の教育の激変は、教育史が時代背景と密接な関係にあることを浮き彫りにします。「教育史の知見は教育のプラス・マイナスの両面を歴史的に冷徹に考察」し「改善・改革の課題を探り、教育の発展に大きな力となる」。教育史の習得は未来を見据えた教育政策を作る土台です。（本の泉社・2200円）